

1 月例会は「明日へのチケット」

2007 年映画 10 選、2 月 14 日に例会選定会議

新年おめでとうございます

昨年は、例会で「胡同（フートン）のひまわり」、「いつか読書する日」、「ホテル・ルワンダ」、「マザー・テレサ」、「恋するトマト」、「トンマッコルへようこそ」を鑑賞し、あらためて並べてみると、なかなかオモシロい作品であったように感じます。また、夏に 5 周年記念上映会として加古川市民会館で「フラガール」を上映し、特別ゲストとして李相日監督をお招きすることもできました。

会員も、昨年より 14 名増えて 207 名となり、目標の 200 名を超えて、安定した運営の見込みもできてきました。

このように見ると、この会の活動も、設立の頃と比べると内容が安定し、イイ感じになってきた 1 年でした。

一方では、この会の世話役である一部の運営委員への負担が少しだけ増えているようです。どうぞ、準備や受付や宣伝をときどき手伝っていただくことをお願いします。また、運営委員会は、定例の作業をしながらの世間話しをする井戸端会議のようなものです。時間のある方は、電話やホームページで日時を確認して、遊びに来てください。

今年の目標は、ありきたりですが、さらに良い映画を選んで、例会で鑑賞したり上映会で紹介することとしたいと思います。内容でも数字でも、まずは、良い年であった昨年の実績を、少し上回るよう意識した計画をし、活動していきますので、新年もどうぞよろしく願いいたします。

例会のお知らせ

名称 / 第 34 回例会「明日へのチケット」

日時 / 2008 年 1 月 24 日(木) PM2:00 ~、 PM4:20 ~、 PM6:40 ~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ 600m)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。



タイトル / 明日へのチケット

監督 / エルマンノ・オルミ、アッバス・キアロスタミ、ケン・ローチ

出演 / カルロ・デッレ・ピアーネ、ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ、シルヴァーナ・ドゥ・サンティス、フィリッポ・トロジャーノ、マーティン・コムストン、ウィリアム・ルアン

データ / 2005 年、イタリア/イギリス、1 時間 50 分、35mm
ジャンル / ドラマ、ヒューマン、コメディ

解説 / 2008 年最初の作品は、エルマンノ・オルミ、アッバス・キアロスタミ、ケン・ローチという 3 人の巨匠監督による夢のコラボレーション作品です。

ローマへと向かう列車を舞台に、偶然乗り合わせた乗客たちの様々な人生模様が鮮やかに紡がれていきます。3 監督それぞれが演出する 3 つのエピソードを緩やかに繋げ、全体として 1 本の長編作品を構成したという何とも興味深い作り方をした作品です。

ローマへと向かう特急列車に乗り込んだ様々な人種と階級の人々。そこで描かれるのは彼らが手にした 1 枚の乗車券がもたらす哀しみ、不安、残酷さ、不平等、そしてそれでも失われない愛と希望の物語。

悪天候のために飛行機をあきらめ、オーストリア西部のインスブルック駅から列車でローマに帰るはめになった初老の大学教授は、チケットを手配してくれた相手先企業の女性秘書にときめき、その思いをきっかけに、これまでの自分なら考えられないようなひとつの行動をとる。

翌朝、列車はイタリアの小さな駅に停車した。太った中年女性が乗り込んでくる。彼女に付き従う青年は、自分自身と真摯に向き合うことで、やっと未来へと目を向けるようになる。長い間わがままで自分勝手に生きてきたある中年女性は、人生は誰にも頼らずに一人で歩いていかなければならないことを思い知らされる。

一方、ピュッフェでは、夢にまで見たサッカーチャンピオンズ・リーグの試合を観るためにスコットランドからやって来たセルティックの熱烈なサポーターの 3 人の若者。彼らもまた自分たちがすっかり世界とつながっていることを知り、限りない未来への可能性を見つけ出す。

そして偶然めぐり会った乗客たちは、それぞれの新しい人生の選択と可能性の物語へと旅立ってゆく。

忘年会で選んだ 2007 年映画 10 選

12月20日に平岡町新在家のがんこ加古川店で、年末恒例の忘年会を開催したところ、やや少ない110名の参加でしたが、それぞれの近況とともに、5月例会の作品選定と2007年の映画ランキングを決めるなど楽しい時間を過ごしました。

映画ランキングは、今年も日本映画が豊作で30本近くの候補があがりましたが、洋画の候補は20本にも及びませんでした。

日本映画は、基順作として「続・三丁目の夕日」からはじめ、それより「オススメ」とか「チョット下」とか言ううちに、基準作が圏外になり復活することはありませんでした。中でも注目するのは、暫定1位を守り抜いた「それでもボクはやってない」と、アニメを評価しない面々が多い中、観た人すべてが強く推薦した「河童のクウと夏休み」でした。

洋画は、やはり「シッコ」を推薦する人が多かったのですが、9位まではいずれも名作で、甲乙つけがたいようでした。参加者それぞれのお好みの1作品が選ばれたことで円満にランキングが決定しました。

このランキングは「忘年会で選んだ2007年映画10選」ということで、酒肴のひとつとしてのお遊びですが、なかなか含蓄があるラインナップです。

2007年の映画も豊作ではオモシロかった。

【邦画の部】

1位「それでもボクはやってない」(監督/周防正行、主演/加瀬亮)、2位「河童のクウと夏休み」(監督/原恵一、原作/木暮正夫)、3位「パッチギ! LOVE&PEACE」(監督/井筒和幸、主演/井坂俊哉)、4位「めがね」(監督/荻上直子、主演/小林聡美)、5位「ひめゆり」(監督/柴田昌平、プロデューサー/大兼久由美)、6位「松ヶ根乱射事件」(監督/山下敦弘、主演/新井浩文)、7位「キサラギ」(監督/佐藤祐市、主演/小栗旬)、8位「自虐の詩」(監督/堤幸彦、主演/中谷美紀)、9位「六ヶ所村ラブソディー」(監督/鎌仲ひとみ、プロデューサー/小泉修吉)、10位タイ「未来予想図」(監督/蝶野博、主演/松下奈緒)、10位タイ「天然コケッコー」(監督/山下敦弘、主演/夏帆)

【洋画の部】

1位「シッコ」(アメリカ、監督・主演/マイケル・ムーア)、2位「善き人のためのソナタ」(ドイツ、監督/フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク、主演/ウルリッヒ・ミューエ)、3位「4分間のピアニスト」(ドイツ、監督/クリス・クラウス、主演/モニカ・ブライプトロイ)、4位「麦の穂をゆらす風」(イギリス/アイルランド/ドイツ/イタリア/スペイン、監督/ケン・ローチ、主演/キリアン・マーフィ)、5位「長江哀歌(エレジー)」(中国、監督/ジャ・ジャンクー、主演/チャオ・タオ)、6位「パンズ・ラビリンス」(メキシコ/スペイン/アメリカ、監督/ギレルモ・デル・トロ、主演/イバナ・バケロ)、7位「サン・ジャックへの道」(フランス、監督/コリーヌ・セロー、主演/ミュリエル・ロバン)、8位「世界最速のインディアン」(ニュージーランド/アメリカ、監督/ロジャー・ドナルドソン、主演/アンソニー・ホプキンス)、9位「ドレスデン、運命の日」(ドイツ、監督/ローランド・ズゾ・リヒター、主演/フェリシタス・ヴォール)、10位タイ「墨攻」(中国/日本/香港/韓国、監督/ジェイコブ・チャン、主演/アンディ・ラウ)、10位タイ「ある愛の風景」(デンマーク、監督/スザンネ・ピア、主演/コニー・ニールセン)

ということで、5月例会は「シッコ」に決定しました。

井筒和幸監督の講演を聞いて

12月9日播磨町の人権集会で「パッチギ ラブ&ピース」の上映と井筒監督の講演がありました。

最初に、在日の方の人権や生活を強く描いた映画「パッチギ ラブ&ピース」の封切後、「パッチギ」のときにはなかったバッシングがインターネット上で沢山流されたことが語られました。製作中の苦労話では、戦争中のヤップ島のシーンでは、今平和な島ではできないと西表島で協力を得たこと、バックのヤップ島のシンボルの山はCGで1ヶ月もかけて作ったこと(映画では10分ほどですが)。兵隊さんの服装についても海軍・陸軍区別・・・私にはどのワンシーンかもわからないような襟章への細心の注意。朝鮮半島の海岸のシーンでは、千葉まででかけ撮影したこと。それも済州島の海女さんが当時日本へ来ていたこと、千葉の海岸でわかめを取り、それを爆弾の材料にしていたことなど当時の日本と朝鮮半島との歴史をまじえながらお話をしてくださいました。

また、司会者の方の「戦闘シーンのすさまじさ、ここまで残酷に描く理由は」の応えが、「戦争は本当に悲惨なので。きれいな話はありません。だから戦争はしてはいけません。そのことを伝えるためにあえて悲惨な情景を描いている」との思いにはハッとさせられました。井筒監督の辛口のトークにはハラハラしながらも、細やかな映画製作と平和への思いが伝わる1時間30分の講演でした。(山本和美)

例会選定会議のお知らせ

7月、9月、11月の例会作品の選定会議を、2月14日(木)午後7時から山本さん宅(JR東加古川駅西へ徒歩10分、加古川サティ西隣)で開催しますので、ご参加いただきますようご案内いたします。

場所がわかりにくい方は、近くから携帯電話(090-9283-0435)に連絡いただければお迎えに行きます。

前回例会の報告

11月22日の例会では、1950年代の朝鮮戦争が続く中、山奥にある戦争も武器も知らない平和な村に迷い込んだ人民軍、韓国軍、アメリカ軍の兵隊と村人が繰り広げるファンタジー戦争ドラマ「トンマッコルへようこそ」を鑑賞しました。

コメディと思って観た人は、戦争の残酷な場面とメッセージの強さに驚いたかもしれません。参加会員147人。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ ☎675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 207人(11月22日現在)